やまとのたみとへぶるのたみのそしてぜんみんぞくのひとりのかみ
～ぜんみんぞくのしんわに、せいしょのひかりをかがやかせよ～

Author: LyiMuse;

原著者:LyiMuse:

/////////////////前文///////////////

各民族の神話に聖書の光を当てよ、天地創造したまえし万物の支配者である獨神יהוהの礼拝が光赫き、獨り神יהוהの榮光、各國民に耀く。

日本人であれば、聖書原文をよく読んでから、古事記原文を読んでいくとその真実が耀いて来ます。

さて、神より、示された、惠(啓）示を 別ページにとり急ぎザックリとお伝えします。
聖書、古事記の原文を参考にしてみてください。

情報量が膨大ですので、この世の言葉ではつたえきれないですが、
神のアガペの愛への感謝と賛美の礼拝をしてから、聖書を深く読み、それから古事記を読んでくださって補ってみてください。

/////////////////以下本文///////////////
やまとのたみとへぶるのたみのそしてぜんみんぞくのひとりのかみ
〜ぜんみんぞくのしんわに、せいしょのひかりをかがやかせよ〜

///

スメラミコト:
スメ 総べる、全て、治める。
ラ 中心、
スメラ 天地、宇宙の中心、総べる中心、
ミコト 尊、永遠の生命、神、神の中の神、
唯一、唯獨り、獨り神יהוה、その來たる姿獨り子天地（宇宙）の中心イエスキリストにたいする尊称語。

総てを総べる唯獨りの神のこと、つまり、聖書のיהוה、古事記の獨神。

転じて、日の本では、その祭祀者が代々、称号として用いているが、
本来は、יהוה獨神、その來たる姿獨り子天地（宇宙）の中心イエスキリストの尊称である。

イヤサカ:
彌榮 いやさか、いやさかえ。
彌 イヤ ますます、いよいよ、さらに。
榮 神の榮光
、神の赫き輝き。
ますます、神に栄光あれ。
榮え輝き給え。
神への賛美と感謝の言。

スメラミコトイヤサカ:
獨り神יהוהよ、ますます、榮赫き給えへ！
神の榮赫を賛美感謝します。
日の本おいて、本来は、
スメラミコトの尊称を呼称とした祭祀者が、
神祭りの際に、参列者、神の民とともに、獨り神への讃え詞として称えた。

また、別の尊称として、日の本では、

天照坐皇大御神:アマ テラス スメ オホミカミ (略称 天照大御神)、
唯一獨りの神、永遠にして隠たる神、在りて来たる神、…
である獨神יהוהの靈的に顕れたる尊称、
天 アマ-靈的全宇宙、
照 テラシ-偏在にして全宇宙を照らす、
坐 マシマス-全宇宙をシラシメス、
皇スメ-全ての中心、真中、
大御神 オホミカミ-偉大なる神。
と、
尊称され、即ち、聖書の義(神の義)の太陽(この世の太陽の意味ではない比喩としてである)、イエスキリストを示す尊称である。

日ノ本では天皇(スメラミコト)を呼称する、天壌無窮の祭祀者家系により祭祀されている。

獨神 יהוה:
神の名は人では呼ぶことができないため、
聖書では、永遠、隠れたる唯一の獨神、存在の根源のיהוהと記述されるが発音は秘されて、アドナイ(主)と呼ばれている。
古事記では、永遠、身を隠したる存在の根源の獨神(ゆいいつのかみ)と記述されているが名は秘されている。

天地初發之時、於高天原成神名、天之御中主神、次高御產巢日神、次神產巢日神。此三柱神者、並獨神成坐而、隱身也。

בְּרֵאשִׁית, בָּרָא אֱלֹהִים, אֵת הַשָּׁמַיִם, וְאֵת הָאָרֶץ
初發に、創造された、神は、天と地を。
初發に神は天地を創造された。

高天原:(神の)永遠
高 タカ 時、神の時、カイロス。
天 アマ すべての中心。
原 ハラ 無限の空間、無限の水平。
つまり、時間と空間を超えた中心、
すなわち、永遠。

天地初發之時、於高天原成神名、天之御中主神、次高御產巣日神、次神產巣日神。此三柱神者、並獨神成坐而、隱身也。
天之御中主神、高御產巣日神、神產巣日神、この三柱の神はみな隠れたる永遠の存在である獨神から成坐(ナリマシマス:すべてを成しおさめている)している。

聖書では、天の父、御子イエスキリスト、聖靈の三つは、唯獨の神יהוהで在ることを示している。神はすべて創造し成し給うている。

即ち、天の父:天之御中主神、御子イエスキリスト:高御產巣日神、聖靈:神產巣日神、に当たる。

そして、聖書の三位一体の唯一獨つの神יהוהは、古事記の獨神に当たる。
此三柱神者、並獨神成坐而:この三柱の神(三位の神)は、 みな(すべからく)獨神から 成りませる。
 成りませるは、在りて在るであり、在りて在る永遠の存在の根源である隠れたる獨神יהוהを示す。

高天原(時空を超えた存在)永遠の神עלםは、隱身也(隠れたる神):עולם、唯獨りの獨神である。

主イエスキリストは、隠れたる永遠の生命である獨神の獨り子である。
唯獨の救いの神יהוהの現れたる姿、それを獨子と尊称し奉る。
ヨハネ伝にあるように、すべて全宇宙、天を照らす神の光として来られ今も中心に坐(在します)。
その御存在み詞ロゴス権威を受け入れたものは神の子と成る特権を与えられた。それは、天地が始まる前から記されている者たち、基督者クリスチャンである。

獨子イエスキリストと祭祀者カム ヤマト イハ レビ コ ノ ミコト:
日ノ本での尊称:高御產巣日神、高木神、天照皇大御神。

古事記の神武天皇のくだりでは、高木神天照大神(אלהיםの神、"我々"に通じる、聖書でも神は人間に対してはしばしば複数形として現れ示され)、高木神としてでてくる。
神武天皇は、受肉前の主イエスキリストを祭祀し、受靈(うけひ)し、隠れたる永遠の獨神יהוהの詔を靈受し、大和の國をおさめた。

ヤマト:

ヤマト詞では、ヤ:神、マ:真、ト:止まる所、真の神が止まる國の意味。
広義では神現れたる神よりおさめられたる國(クニとは範囲、場所)、
狭義では、現世(うつしよ、この世)の日本あるいは大和地方。
獨り神も詔勅を獨子から受靈(うけひ)により祭祀者が給わり、臣下が補弼(祭の政化)してきた國であるのヒのモトの國の尊称の一つである。

ヒ:
当て字で、
靈、日、火、命、息…
とあるあらわしている。
神の靈ことであるし、神ご自身の忌み名であるもある。
聖書には芝の燃え榮る火、火の柱、神の息吹、風、などで神を讃えている。

ヒのモト:
靈ノ本、
日ノ本、
広義で、獨神יהוהの息吹(靈)の本、神坐(まします)処、神の臨在などを示す。
狭義では現世(この世)の日本國、大和のなど國。

崇神尊皇:
天地創造したまう獨神יהוהと、その獨り子イエスキリスト、獨神の御霊(聖靈)を崇拝し,祭祀者の天皇を尊ぶ。
崇神：常に、三柱にして獨神、三位一体の存在יהוהを崇め祀るること。
尊皇：また、天上無謬の祭祀者家系も尊ぶこと、但し、崇拝しては、ならない。

祭と政と奉:
古来、全世界では、
天地、全世界を創造し、今も生きて、天地を活かされいる、
唯、獨りの神יהוהを崇め拝していた。
しかし、時が流れ、
人は、驕り高ぶりとマモナこの世の悪魔の誘惑から、
汎神多神教、人の先祖崇拝、物で形作った神への崇拝など、偶像崇拝と堕落した。
日ノ本でも、
汎神多神教、人の先祖崇拝が、入ってくるまでは、

古事記に示されるように、すべてをならしめたもうている存在、獨り神יהוה 、その獨り子である受肉前の靈なる主イエスキリストを祭祀(まつり)し、受靈(うけひ)し、隠れたる永遠の獨神יהוהの詔を靈受し、國を政(まつり:おさめ)ていた。

即ち、祭司が、神を奉り、その意(靈)を受け、これ、祭であり、
それをさらに臣民が受け、神の御心に適った政(まつり:政治)を行い、國作りをしていくのが本来の姿である。
真に(アーメーン)に、
主イエスキリストが仰しゃった祈りのごとく、

御名を崇めさせ給へ、
神の御國に入らせ(来らせ、在らせ、現せ)給へ
神の御心の隨に天が成っているように地(この世)にも神の御心の隨に成らせ給へ、
である。
祈り、祭し、政していくのが本来の國の姿である。

また、各々にしても、
同じことである。
第一に、唯獨りの神を、獨神יהוהと獨り子イエスキリストをその御靈を、全身全靈をかけて求め、
崇めたてまつることである。
宜しく、
家庭においても個人においても、天地を創造し、いまも生きて我々を活かしてくださっている、獨神יהוהと獨り子イエスキリストをその御靈を求め祈り礼拝することである。
もっとも崇高な礼拝とは、神ここに坐(まします)との主イエスの臨在を感じ、神とともに生活することである。この人を神の人といい、義(神との深き交わり)の人いう。
宜しく、
私たちの中にましまし、また、神の中にいる私たちを、実感し受け入れ生活していくのが神の子とであり義人である。
そこに、神の愛アガペが在る、アガペが流れてるキリストの清く温かい血潮血脈の中に私たちは活かされ、また、私たちのなかにも、キリストの清く温かいアガペの血潮血脈がながれているのである靈的にも肉的にもである。

アーメーン^_^^_^！ハレル・ヤー^_^^_^！
イエスキリストに彌々(いよいよ、ますます)の榮光あれ！
真の靈なるスメラミコトなるイエスキリスト彌榮、彌榮、彌榮！

そして、その祭司なる天皇、うつし世のスメラミコト彌榮彌榮彌榮！

以上のことを鑑みて、
我が日ノ本の國は、ヤマト民族は、
もとから天地を創造し、いまも生きて我々を活かしてくださっている、獨神יהוהと獨り子イエスキリストをその御靈を求め祈り礼拝、祭祀してきた國柄であり、今も神によりアガペされ活かされている國と民である。
ヘブライと同じく靈的に、獨神יהוהを崇めてきた靈的民族である。

礼拝の様式は、地域、時代、風土ともに変わり違い、土地柄、民族ごとに神が定めている。
もとから、獨り神を崇めし、國民は、今ある、様式そのままでよい、
拍手、礼、で獨り神を拝して良い、
聖書にも、古代ヘブライでは、拍手、平伏で獨り神を礼拝していたとある。
即ち、我が國の皇室祭祀の仕方を変えることもなく、また、
御祭神もそのままで良い。

(もちろん、偶像崇拝はべつである、御利益崇拝、多神教も別である)

在りて在る神、唯獨りの神יהוהを、我が國では、その御名を直接呼ぶことを憚り様々な御尊称で呼んでいる、ヘブライの民もまた、アドナイ(主、ご主人さま)と呼んできた。
他の民族の神話にも、最初の存在にたいしては、呼ばないか、例え話や尊称にしている。

様式よりも、
何よりも、
主イエスキリスト曰く、
靈によって、靈なる隠れたる獨神יהוהを礼拝するのが大切である。

http://god2prophet.blogspot.jp/2016/12/blog-post_29.html
ひのもとのかみはゆいいつのかみである。
靈(ヒ:ヤマト・ヘブライ)の本(モト)の神(かみ)は獨(ひとり・ゆいいつ)の神(かみ)である。
(古事記天地始發段 ヘブライ聖書בראשית)

静かに目を閉じ心静め、
私の意識(肉体の命:プシュケー:φυχη)が無くなる時、
私(神の命:ゾーエ:ζωη)は祈ります、
その時、カイロスの時、

聖書と古事記をカイロスに讀む時、
獨り神が唯一絶対の神が、
浮かび上がって来ます。
隠れたる隠身(カミ)が、永遠が、
成りて来たり給うて居るのです。
主は偉大なり、
アーメン本当に！アーメン本当に！

主は愛されている！我が國を！日本を！ヤマト民族を！
主イエスキリストはアガペされている。
2000年前、あなたが人の姿で現れたあの國のあのヘブライの民と等しく愛してアガペして祝福してくださっている！

主よ主よ！ありがとうぎざいます。
主イエスキリストが愛されている日本を日本に主の幸あれ！
主イエスキリストが祝福されている日本にますますの主の榮光あれ！

http://god2prophet.blogspot.jp/2017/01/blog-post_41.html
יהוהなる獨神よ！ 〜 永遠なる唯獨りの隠身の在りて表れ足る神への感謝の祈 り יהוה
わがやまとのかみよ、わがへぶるのかみよ、
ただひとりのかみよ、
われにちからをあたえたまへ、
あーめん、はれるや、あーめん、はれるや、
わがすくいのかみ、いえすさま、いえすさま、
わが、ひ(靈)のもとのおおいをとりはらえたまへ、
あなたは、おおいなるちからによりて、とりはらってくださいました。
れい(靈)のめひらけ、やまととへぶるはひとつにかえり、せかいはすくわれました。
あーめん、はれるや、あーめん、はれるや、
すめらみこと(獨神・יהוה)いやさかいやさかいやさか、
ありがとうございます、ありがとうございます、
あなたにかんしゃいたします。
ただひとりの、いだいなるちちよ、すくいぬしよ、せいれいよ、
イエスなるיהוהなる獨神よ！

注)この世の心静め、靈性に読み取ってください。

יהוה(ヘブライ語、ヘブル語)
יהוה :在りて在り足る、来たりて来たり足る、全てを創造し活かし永遠無限の隠たる唯獨(ひとり)の神。

イエスキリスト: יהוהは救い、救いの神、永遠無限の身を隠したる唯獨の神יהוהが人の姿を取って救いに現れ靈に帰られた。そして、いまも靈から永遠に救い助け続け祓い清め続けていてくださっている。

獨神:在りて在り足る、来たりて来たり足る、全てを創造し活かし永遠無限の隠たる唯獨(ひとり)の神。

すめらみこと（補足）:
 すめら:並て(すべて・ならびて)、全て、総て、治める、根源、源、唯一、獨)。
 みこと:命、尊、神、靈、隠身(かみ)、永遠、存在、言、事、来足る、在り足る。
 すめらみこと:在りて在り足る、来たりて来たり足る、全てを創造し活かし永遠無限の隠たる唯獨(ひとり)の神。つまり、獨神・יהוה。
唯一、唯獨り、獨り神יהוה、
その來たる姿獨り子天地（宇宙）の中心イエスキリストにたいする尊称語。

総てを総べる唯獨りの神のこと、つまり、聖書のיהוה、古事記の獨神。
転じて、日の本では、その祭祀者が代々、称号として用いているが、
本来は、יהוה獨神、その來たる姿獨り子天地（宇宙）の中心イエスキリストの尊称である。

捕追) 日本の神社の祭神について。
神社御祭神で、明治神宮、東郷神社など、
國家への功労者、偉人などを祀っている社もあるが、
これは、現代でも聖書のアブラハムやヤコブの史跡を巡るのとおなじで、
偉人を尊ぶ志しであり、聖書あるように父母を尊ぶのと同じである。

獨り神יהוהを崇めるのとは、まったく別であるのはいうまでもない。
しかし、
外来の仏教(本来は無神論)ともにきた後期ヒンズー教の多神信仰、儒教の先祖崇拝からきている神社は注意する必要がある。
要は、行かなければよい。
唯一の神にかなわぬものは、廃れるだけである。